

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520857

研究課題名(和文) 中世東地中海を巡る国際関係及び海運史の再検討

研究課題名(英文) Review on international relations and maritime history of Medieval Eastern Mediterranean

研究代表者

太田 敬子(Ohta, Keiko)

北海道大学・文学研究科・教授

研究者番号：40221824

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：地中海を介したムスリムとキリスト教徒の関係史を、東地中海域史の観点から検討することを目標とした本研究では、東地中海域の一体性を確保していた技術や資源の研究、特に海洋交通と海軍のための技術と資源、地理的情報などについて、キリスト教徒とムスリム双方の史料を包括的に収集・検討し、さらに港湾都市及びクレタ島・キプロス島等の島嶼部の歴史の再構築を進めたが、その過程において、11～13世紀にかけて、航海技術と資源開発に飛躍的発展が見られ、東地中海域の国際関係にアルメニア人のネットワークが深く関わっていることが分かった。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to examine the relationship between the history of Christians and Muslims over the Mediterranean, from the point of view of the Eastern Mediterranean area history. Collecting and examining comprehensively both of Muslim and Christian materials, I specifically conducted study of technology and resources, which has secured the integrity of the Eastern Mediterranean region; marine traffic and resources; geographical information and technology for the Navy. In addition, I tried the reconstruction of the history of the islands (Crete, Cyprus and so on) and other port cities. As a result, I could find that during 11th and 13th century, rapid progress was seen in the development of resources and seafaring technology, and that network of Armenians was deeply involved in international relations of the Eastern Mediterranean region.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：異文化交流 地中海 十字軍 海運史 境界領域

1. 研究開始当初の背景

地中海は中東イスラーム世界とヨーロッパ・キリスト教世界の間で介在し、両者の対立と交流の舞台、両世界間の海のフロンティアと見なされてきた。アラブ・ムスリムの北アフリカ制覇以降、地中海史は基本的に南北に分断して語られてきたといえる。しかしながら、地中海世界を地域として捉える観点も従来から存在し、フェルナン・ブローデルに代表されるような優れた研究が発表されているが、それらが社会経済史の分野に偏っている観は否めない。政治史や軍事史の文脈では、地中海による分断性が強調され、その傾向はシチリア島を例外として文化史の研究にも影響を与えている。それが端的に表れているのは十字軍研究である。また、十字軍に先立つ時代のムスリム-ビザンツ関係史においてもその傾向は顕著である。

そこで中東イスラーム社会のキリスト教徒研究の実績を生かして、9世紀から13世紀にかけてのムスリムとキリスト教徒の関係史を一つの地域内の出来事という観点から再構築することを考えた。

2. 研究の目的

9世紀から13世紀にかけての東地中海世界では、十字軍遠征も含めて、ムスリム諸王朝・ビザンツ帝国・十字軍諸国家・アルメニア王国・ノルマン人国家・イタリア諸都市等の織りなす国際関係にダイナミックな変化が見られ、それに伴う人・物・情報の大量移動がヨーロッパ・キリスト教世界とイスラーム世界との間の距離感・疎外感を大幅に削減し、地域としての一体化が進んだ。それを支えたのが海運と海軍力であり、その双方において画期的な革新が見られた時期でもあった。しかしながら、従来からこの時期の歴史は、十字軍史及び反十字軍のジハード史の文脈に偏って検討されてきた。本研究では視野を広げて地域研究の観点から東地中海史の再検討を行うことを目的とした。具体的には以下の3点の検討を行う。

(1) 東地中海域の一体性を確保していた技術や資源の研究。特に海洋交通と海軍のための技術と資源、地理的情報などについて、キリスト教徒とムスリム双方の史料を包括的に収集し、データベースを作成した上で検討を行う。

(2) 当該時期の東地中海の港湾都市史の研究。具体的にはシリア沿岸部のトリポリとアクレとアスカロン、エジプトのダミエッタ、アナトリアのスミルナやアッタレイアを想定している。これらの都市に関して史料収集と現地調査を行い、実証的な研究が可能な都市を対象を絞り込んで検討する。

(3) 当該時期のクレタ島、キプロス島、ロードス島史の再構築。島嶼部の歴史は沿岸国家の一部、辺境として付随的に研究される傾向にあるが、島から周辺地域を見るという視線で代表的な東地中海の島の歴史を検討し、それらの共通性と相違を分析する。

以上具体的な目標を設定し、最終的にはこの3つの検討成果を総合して、中世東地中海史の再構築を行う。

3. 研究の方法

当初研究の方法・手順として予定していたのは、次の通りであった。平成23年度には、研究の目的に掲げた東地中海海運史(上記研究目標(1))に関連する史料収集とデータベース化、港湾都市(同(2))及び諸島(同(3))の歴史研究に必要とされる予備調査と文献収集を行い、平成24年度には、作成したデータベースの分析を行い、(1)に関する成果をまとめると共に、(2)及び(3)に関する文献収集とデータベース化、及び本格的現地調査を行う。その成果を踏まえて、(2)に関しては検討対象とする都市を絞り込んで史料分析に入る。(3)についてはビザンツ帝国史の文脈で比較的先行研究が充実しているので、年度初めから資料の分析を並行して行う。平成25年度には、文献研究の成果を現地調査で確認すると共に、(2)及び(3)の史料分析結果をまとめる。年度後半には当該研究課題に関する総合的検討を行う予定であった。しかしながら、シリアおよびエジプト情勢が悪化し、研究目的(2)に関する現地調査は事実上不可能になった。そこで(2)に関しては可能な限りの文献研究を行うこととし、(1)と(3)に研究の重点を置くと共に、東地中海域におけるアルメニア人の活動とそのネットワークという新たな観点を導入して(1)と(3)の研究の精度を高めることにした。

4. 研究成果

(1) 史料収集とデータベースの構築

当該研究課題に関する史料収集においては、すでに研究書や論文レベルの文献史料はかなり入手しているため、収集の主たる対象はアラビア語及びギリシア語の海運書や地理書・博物誌の刊本及び写本(マイクロフィルム等)に焦点を絞った。ギリシア語文献に関しては、2012年3月にかけて行ったキプロス共和国及び北キプロスへの海外出張において、日本では入手しがたい史料や研究書、研究論文のコピーを入手することができた。さらに2013年3月にはギリシアに海外出張し、アテネにおいて史料および研究文献収集を行い、ギリシアにおける最新の研究成果を入手した。2013年度は新たな研究要素として取り入れることにしたアルメニア人に関する文献を収集した。これらの整理を継続的にを行い、東地中海域の一体性を確保していた技術や資源の研究、特に海洋交通と海軍のための技術と資源、地理的情報などについて、キリスト教徒とムスリム双方の史料を包括的に収集・検討するためのデータベース、東地中海の港湾都市史の研究およびクレタ島、キプロス島の歴史の再構築のためのデータベースを作成した。但し、アルメニア関連史料・文献については、収集を始めたのが時間的に遅れたため、収集・データベース化が共

に遅れ、現段階では不完全である。今後の課題としたい。

(2)現地調査と情報収集

シリア及びエジプトの政治情勢が不安定なため、現地調査は東地中海島嶼部と北部に限定された。(1)でデータベース化した文献史料からの情報を補足確認するために、2012年3月東地中海の中心に位置するキプロス島の調査を行った。主な調査対象は同島のローマ帝政期からビザンツ時代、初期イスラーム時代、十字軍時代の史跡であったが、併せて港湾城塞や山岳城塞を訪問・調査することもできた。そのため、地政学的情報及び自然環境の変化による政治・社会情勢の変化など具体的な情報を得ることができ、研究の推進に大いに役立った。キプロス島に関してはすでに日本で入手可能な文献史料を検討し、研究書・論文に関する分析を進めていたが、ニコシアの教会図書館・ビザンツ研究センターなどで文献収集も行った。

2013年3月にはクレタ島においてビザンツ時代からムスリム支配期、十字軍時代、ヴェネツィア支配期にかけての史跡調査を行った。具体的には港湾都市・城塞・城壁などの軍事・防衛施設、教会・修道院等を現地検分したが、時間的制約もあり、イラクリオン・レシムノ・ハニアとその周辺地域(クレタ島中・東部)に焦点を絞った。キプロス調査同様に地政学的情報及び自然環境の変化による政治・社会情勢の変化など具体的な情報を得ることができた。

研究推進の過程で東地中海の国際関係と技術・文化の発展と伝播にアルメニア人ネットワークが大きな影響力を持っていたことが解明されたため、最終年度ではあったが、2014年1月にアルメニア共和国に調査出張した。イエレヴァンのマテナダラン(古文書館)で文献調査をすると共に、山岳要塞・ビザンツ時代～十字軍時代にかけての教会・修道院を中心の現地調査を進め、地政学的情報や技術・文化伝達経路などに関する貴重な情報を得た。また、研究の新たな方向性を確認すると共に今後の研究推進に不可欠な現地研究者との人脈を構築することができた。以上の調査結果は文献史料からの情報と併せて、研究の推進に極めて有益であった。

(3)史資料分析の成果および成果の発信

史資料のデータベースと現地調査から得た情報を総合的に検討・分析して得た成果は以下のように纏められる。

9世紀後半のトゥールーン朝のシリア・アナトリア進出以降、東地中海世界の「地域」としての一体化が顕著になるとともに、その「地域」における覇権をめぐる抗争も激化し、東地中海域の国際関係は錯綜したものとなり、且つ急速に変転するようになる。それは10世紀後半のビザンツ帝国のシリア再進撃とファティマ朝のエジプト支配とシリア進出によってさらに進展し、トルクマーン勢力のアナ

トリア進出の影響下にさらに複雑化する。そこに十字軍運動が起こったため東地中海史はダイナミックに転換する。当該研究では、このような歴史展開をアラビア語ギリシア語、さらにシリア語・ラテン語史資料および現地調査で得た情報から実証的に検証することができた。

以上のような錯綜する国際関係において、アルメニア人の大量移動と東地中海進出、同海域をめぐるネットワークの形成が政治的・軍事的・文化的に大きな影響を及ぼしていたことが史資料分析から判明し、今後の研究推進のための新たな方向性を確立することができた。

ダイナミックな東地中海史の展開の前提となる「地域」としての一体性は、海を介する接触・交流と対立の中から生み出された。それは海洋交通と海軍のための技術や資源の開発と多方向的伝播によって支えられていた。その資源の中には有能な海軍指揮官や熟練の船員といった人的資源も含まれた。史資料を綿密に分析することによって、「地域」としての東地中海史を支える物理的要因を解明することができ、十字軍時代、特に12世紀以降さらに技術面・資源面での発達が加速したことを検証できた。

特にキプロス島・クレタ島の調査と史資料分析の中から、東地中海史の展開においてオーソドクス、カトリック、イスラームという宗教的要素が大きな位置を占めていることが検証され、イスラームとキリスト教の2項対立的に東地中海史を考察する研究傾向に対して実証的に警鐘を発すると共に新たな研究の方向性を示すことができた。

これらの研究成果は、2012年12月15日に早稲田大学生要旨研究会大会シンポジウム「フロンティア」から見た中世地中海世界」において、「東地中海における陸・海のフロンティア」として口頭発表をおこなっているが、2014年10月の日本オリエント学会大会記念シンポジウム、および同年12月の早稲田大学における研究会で発表する予定であり、また現在論文執筆の準備を進めている。研究成果の社会的還元としては、ワールド知球アカデミー公開講座(2013年1月24日開催:東京日比谷)において、「境域としてのキプロス」という題目で講演を行い、またNHK文化センター地中海学会連続講座(2013年12月16日開催:東京青山)においても「シリアの港と十字軍-アッコとテュロスを中心に-」という題目で講演を行った。また成果の一部は、三代川寛子編『東方キリスト諸教会 基礎データと研究案内(増補版)』(上智大学アジア文化研究所イスラーム研究機構2013)において、学生・大学院生向きの基礎データとして発信した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

太田敬子「東地中海における陸・海のフロンティア」早稲田西洋史研究会 2012年12月15日 早稲田大学戸山キャンパス

〔図書〕(計 1 件)

(共著)三代川寛子編 上智大学アジア文化研究所イスラーム研究機構『東方キリスト諸教会 基礎データと研究案内(増補版)』(2013)84-89.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

公開講座

NHK文化センター地中海学会連続講座「シリアの港と十字軍-アッコとテュロスを中心に-」NHK文化センター(青山)(2013年12月16日)

ワールド知球アカデミー公開講座「境域としてのキプロス-イスラーム、オーソドックス、そしてカトリック-」ワールド航空サービス東京本社(日比谷)(2013年1月24日)

6. 研究組織

(1)研究代表者

太田 敬子 (OHTA, Keiko)

北海道大学大学院・文学研究科・教授

研究者番号: 40221824

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号: